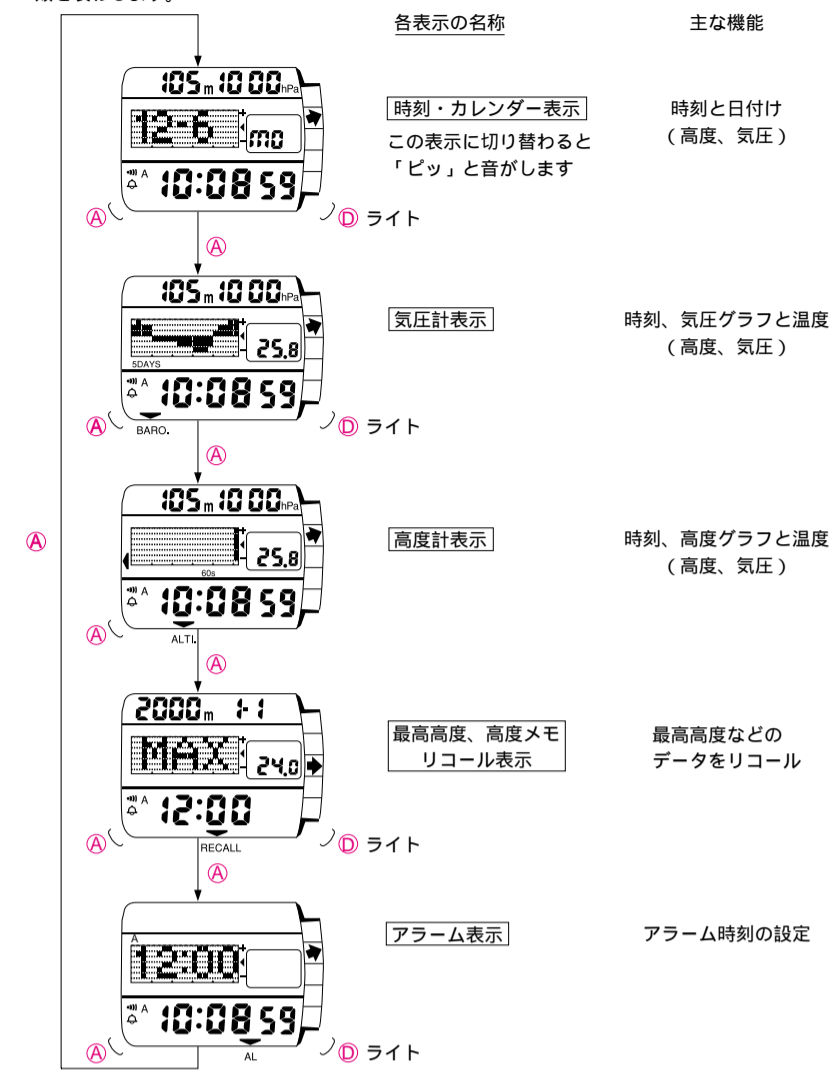


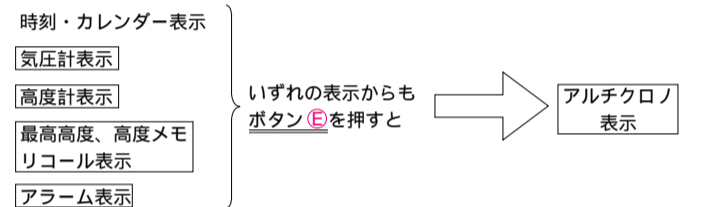
表示の切り替えとその機能について

・この時計は数多くの表示内容と、その表示における機能を持っています。

①ボタンAを押すと、表示が切り替わり5種類の表示ができます。表示の下側で(←)マークが表示の種類を表わします。



②フロントボタンEを押すことにより、[アルテクロノ表示]に切り替わります。



各表示の「**合わせ**」など修正中はボタンEがききません。

③アルテクロノ表示からは、ボタンAを押すことで[時刻・カレンダー表示]に戻すことができます。計測中にこの操作をしても、アルテクロノは作動し続けます。

W750の特長

この時計は時刻・カレンダー機能の他に次の機能をもったデジタル時計です。

- 高度・気圧計測機能
 - ・300m～+6,000mの範囲で5メートル単位で表示します。
 - ・450hPa～1,050hPaの範囲で1hPa(ヘクトパスカル)単位で表示します。
 - ・現在の高度と時刻などもメモすることができます。(高度メモ機能)
 - ・計測時間間隔は通常6分です。ボタン操作で3秒、1分も選択できます。(高度のみ)
- 温度計測機能
 - ・-20～+50の範囲で0.1単位で表示します。
 - ・計測時間間隔は通常1分です。高度計測にて3秒計測選択時には温度も3秒毎計測します。
- 気圧傾向表示機能
 - ・現在の気圧変化傾向を5段階で表示します。
- アルテクロノ機能
 - ・ストップウォッチと高度計測が一になった機能です。
- アラーム機能(ディリーアラームとワンタッチアラーム)
 - ・2種類のアラーム時刻設定方法があります。
 - ・サウンドデモンストレーションができます。
- ライト付(約3秒間の残照式)

お使いになる前に必ずお読みください

この時計の計測機能(気圧、高度、温度、気圧傾向など)は、専門的な計器としてのご使用はできません。あくまでも目安としてご使用ください。

警告 この時計の計測値、特に高度数値を行動判断に利用するようなスポーツには使用できません。たとえば、パラグライダー、ハンググライダー、スカイダイビングなどのスポーツには使用しないでください。

注意 1. この時計の計測機能(気圧・高度・温度)は、専門的な計器としてのご使用はできません。あくまでも目安としてご使用ください。
2. 高度は気圧を計測して算出しますので、同じ高度(場所)でも気圧の変化で算出される高度が変わります。都度、高度補正をしてご使用ください。
3. 作動温度範囲外のご使用はできません。

製品仕様

- 水晶振動数.....32,768Hz (Hz=1秒間の振動数)
- 精度.....平均月差±20秒(気温5～35において腕につけた場合)
- 作動温度範囲...-20～+50(0以下では、秒以下の表示が見にくくなります)但し、気圧・高度計測機能は、0～+40
- 表示体.....FEネマチック液晶
- 表示内容

時刻・カレンダー表示	現在時刻(時・分・秒) 日付け、曜日、高度、気圧、気圧傾向表示
気圧計表示	現在時刻(時・分・秒) 気圧グラフ、温度、高度、気圧、気圧傾向表示
高度計表示	現在時刻(時・分・秒) 高度グラフ、温度、高度、気圧、気圧傾向表示
最高高度・高度メモリコール表示	最高高度 記録日・時刻、温度、最高高度、気圧傾向表示 高度メモ 記録日・時刻、高度グラフ、温度、記録高度、メノマンバー、気圧傾向表示
アラーム表示	現在時刻(時・分・秒) アラーム時刻、気圧傾向表示
アルテクロノ表示	計測時間(時・分・秒、1/100秒) 相対高度、高度、気圧傾向表示

- 使用電池.....小型リチウム電池 SB-T14 1個
- 電子回路.....C・MOS・LSI 1個
- 半導体圧力センサー.....1個
- 半導体温度センサー.....1個

- センサー精度
 - ・高度：±(高度差×4.5%+30m)以内
 - ・気圧：±(気圧差×4.5%+3hPa)以内

ただし温度一定のとき 温度変化による影響

600hPa～1,050hPaでは
高度：100m以内
気圧：10hPa以内 } 10 の変化に対して

450hPa～600hPa
高度：160m以内
気圧：16hPa以内 } 10 の変化に対して
- 温度：±2 (0～+40)
±3 (-20～-0.1、+40.1～+50.0)

上記の製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

各部の名称とはたらき



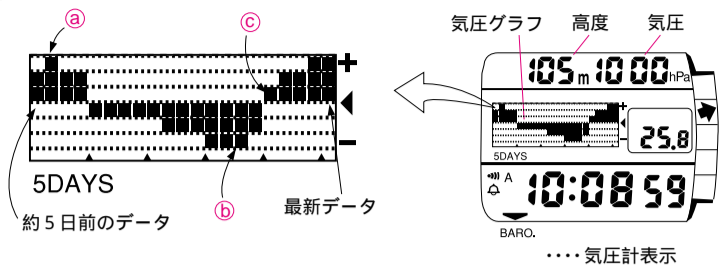
各ボタンの機能は代表的な項目のみ書いてありますので、詳しい機能については、各表示ごとの説明をお読みください。

気圧計表示の使いかた(気圧グラフと海面更正気圧)

- ・グラフィック部に6時間ごとの5日分の気圧変化を表示します。(気圧グラフ)
- ・海面更正した気圧を計算できます。(海面更正気圧)
- ・それ以外に高度、気圧、温度などが表示されます。

気圧グラフの読みかた

気圧計表示 内にある気圧グラフは、約5日間(6時間毎)の気圧変化を表示しています。



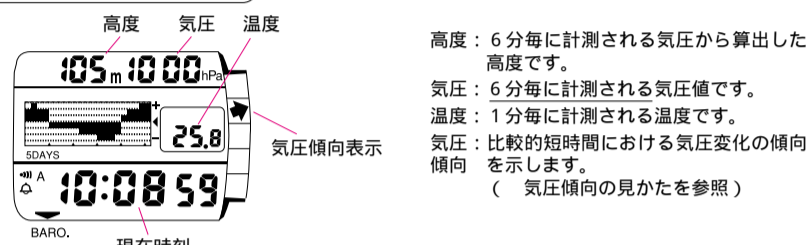
1日4回6時間毎に気圧の変化を上下3つのドットを使って表わします。たとえば上図グラフの①～③はそれぞれ次のように読みます。

- ①: 気圧が上昇しつづけていたことを表わします。(＋3のグラフ)
- ②: 気圧が下がりつづけていたことを表わします。(－3のグラフ)
- ③: 比較的安定して変化がなかったことを表わします。(＋1のグラフ)

上下のドットは、その割合を示すものです。

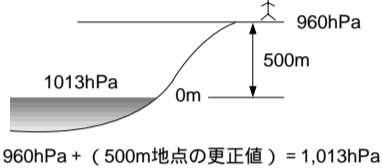
- 気圧グラフは気圧の値を示すものではありません。あくまでも変化の割合を示すもので、6時間に1回その間の気圧変化をグラフに表わします。
- 場所の移動に伴う、気圧の変化を自動的に補正しますので、場所の移動の影響は、気圧グラフには、表示されませんのでご注意ください。

気圧計表示の中で表示される内容について



海面更正した気圧を知るには

- ・天気予報などで使用する気圧値は、実際に計測した気圧をその高度分だけ補正し、高度0mで計測した場合の気圧値として扱います。これを海面更正といひます。



①ボタンAを押して[気圧計表示]にしてください。

注意

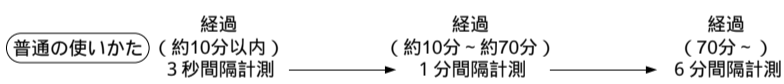
この海面更正はこの時計が気圧値から算出した高度を元に計算しますので高度補正が正しく行なわれないと、海面更正後の気圧値も正しく計算できません。(高度補正のしかたを参照)必ず高度補正を行なってください。



- ボタンCを押すと、気圧グラフの表示部分に海面更正後の気圧値が表示されます。この値を知って、天気図を参照したり、天気の変化を予想するときに使えます。
- ボタンCを押すと、元の表示の気圧グラフに戻ります。

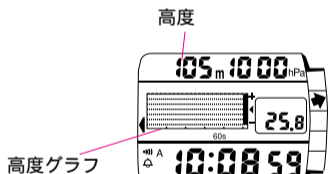
高度計表示の使いかた(高度計測時間間隔の選択)

- ・高度計測及び気圧計測は通常6分間隔で行なわれています。
- ・高度計表示へ入ると、まず3秒間隔で計測がスタートし、その後1分間隔、6分間隔と自動的に切り替わります。
- ・又、計測時間間隔を3秒、1分、6分の中から、選択することもできます。
- ・グラフ表示により、それまでの高度の変化の様子が分かります。
- ・高度、高度グラフや時刻などをメモすることができます。(高度メモのしかたを参照)



①ボタンAを押して[高度計表示]にしてください。

この表示になったと同時に、高度計測を行ないます。



その後3秒ごとに高度計測をし、その値とグラフを表示します。温度計測も同時に行ないます。(3秒間隔計測時のみ)

- 約10分が経過すると、測定時間間隔が自動的に1分間隔に切り替わります。このとき高度グラフはそれまでの1分ごとのグラフを表示します。
- 1分ごとの計測が約60分経過すると、計測時間間隔が自動的に「6分間隔」に切り替わります。グラフは、それまでの6分ごとのデータを2時間分すべて表示します。

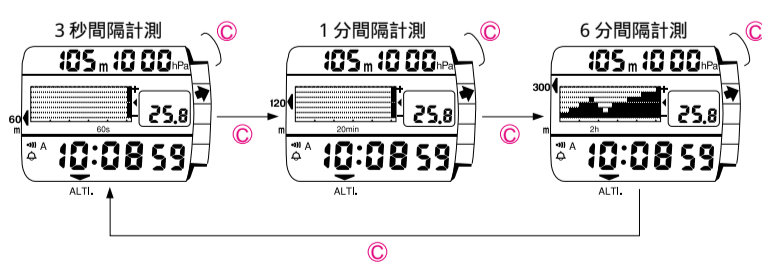
- 高度計測について
1. 高度計測の前には、必ず高度補正をしてください。「高度補正のしかた」参照。
 2. 計測時間間隔によって、高度グラフの見方が変わります。詳しくは「高度グラフの読みかた」参照してください。
 3. 3秒間隔計測から自動的に1分間隔計測へ切り替った場合のみ、約10分間のグラフを表示しますが、ボタンCで1分間隔計測を選択した場合は、右端からのグラフになります。

計測時間間隔を選択して使う場合

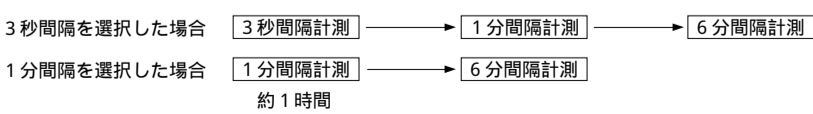
①ボタンAを押して[高度計表示]にしてください。

このときの計測時間間隔は必ず3秒になります。

②ボタンCを押して、計測時間間隔を選択します。



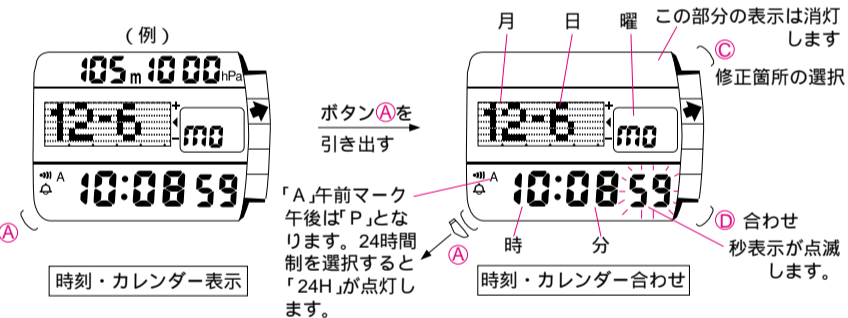
計測時間間隔 ボタンCで選択した計測時間間隔のうち、「3秒間隔」と「1分間隔」については、その後自動的に繰り上がり最終的に「6分間隔計測」になります。



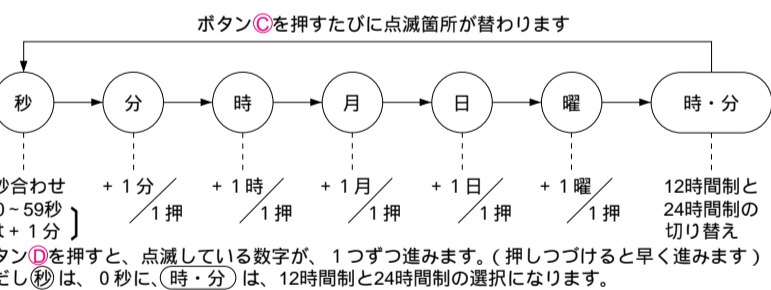
- 選択した計測時間間隔(3秒、1分を選択した場合)が繰り上がり時、計測時間間隔を元に戻したい場合は、再びボタンCを押して選択しなおしてください。
- 計測時間間隔の選択は、この[高度計表示]内のみ有効です。一旦この表示から出て[高度計表示]に戻ると、必ず3秒間隔計測からスタートしますのでご注意ください。計測時間間隔の選択が必要な場合は、もう一度選択しなおしてください。

時刻・カレンダーの合わせかた

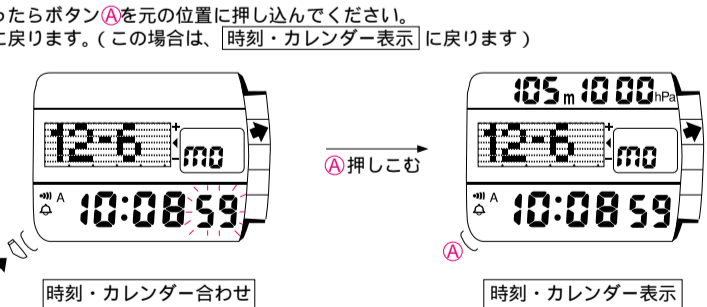
①どの表示状態からもボタンAを引き出すことで[時刻・カレンダー合わせ]状態に入ります



②ボタンCを押して合わせたい箇所を点滅させ、ボタンDで合わせます。



③合わせ終わったらボタンAを元の位置に押し込んでください。元の表示に戻ります。(この場合は、時刻・カレンダー表示)に戻ります)



ボタンAを引き出した状態では、気圧、高度の計測を行ないませんので、時刻・カレンダーの合わせが終了したら、必ず元の位置へ戻してください。

こんな特殊な表示にご注意ください(通常のご使用には関係ありません)

[時刻・カレンダー合わせ状態]で、操作していると、下図のような表示になることがあります。

(ボタンC・Dを同時に押した場合)

この表示は調整する際、利用するもので、故障ではありません。

ボタンB、C、D、Eのいずれかを押して、時刻・カレンダー合わせに戻してください。

